

LLにおけるヒアリング指導の実践報告

——音変化の指導を中心として——

柳 原 由美子

I. はじめに

聴解が読解より難しい最も大きな原因として、読解においては容易に個々の語を認識できるのに、聴解は音声の流れの中で音の短縮、連結、消失、脱落、同化、弱化などの様々な音変化が起こるために、語の連続として捉えることが困難であるということが挙げられよう。したがって、ヒアリング学習の基礎的な指導として、音変化のメカニズムを理解させ、そのルールに慣れるための訓練は重要である。

また、これら指導をLLで行なうことの有効性は、ひとつにはLLを「学習の場」という点から考えた場合、一斉学習（音変化のメカニズムの説明を聞くなど）、グループ学習（音変化の入った発話練習をパートナーとするなど）、個別学習（実際にヘッドフォンを通して教材を聴いて様々な作業をする）を組み合わせた授業が、普通教室と比べて容易にできるということである。そしてもうひとつは、ヘッドフォンやマイクロフォンを使って自分の声を録音したり、教材と自分の声を聴き比べたりする作業を通して、学習者の積極的な反応が期待できたり、教師からの即時のフィード・バックが可能であったり、また、ある程度ではあるが、学習者が自己ペースで学習を進めていくことができるということが挙げられよう。すなわち、これはスキナーのプログラム学習の原理¹⁾のいくつかを実践していることである。

本研究は、以上述べてきたようなことを考慮した上で、短大生のLL授業におけるヒアリング学習の一環として、音変化のメカニズムを理解し、そのルールに慣れるための訓練をした一年間のLL授業実践報告である。なお、学習の始まる前の4月に事前テスト（Pre-test）として、JACETの聴解力テスト（JACET Basic Listening Comprehension Test²⁾）を、また学習終了時の1月に事後テスト（Post-test）として同じJACET聴解力テストを試みた。Ⅲ章ではその結果について述べ、それについて考察した。

Ⅱ．音変化の指導を中心とした授業の実践

1. 年間の授業目標

英語を母国語とする人々が話す簡単な日常会話、および、基本英単語約2000語以内（難易度）、発話速度120～150WPM程度で話される約400～500語からなるテキストを、メモを取りながら聞き取れるようにすることを目的とする。このための下位目標として、JACET聴解力テスト（BASIC TEST: 40点満点）を4月と翌年の1月に実施し、その点差が+5～10となることを目指す。

2. 年間の授業のアウトライン

1) 前期（音声と文字画像のみによる指導）

目標：音変化のメカニズムを理解する。

テキストブック： 学生は毎回授業の度に数枚のプリント教材を配布された。市販のテキストを学生に購入させ、そのまま使うと、情報があり過ぎて聴解学習に向かない場合が多いからであり、また数冊のテキストブックから最適な教材を選択したいという教師側の意図もあるためである。ただし、作成したプリント教材の基になったの

は、*The Essence of College English Dictation* (Asahi Press) と、*Modern English Cycle One* (Seido Language Institute) の二冊であり、前者は音変化のメカニズム理解のため使用され、後者は音変化に注意しながら簡単な日常会話を聴き取ったり、発話したりする訓練のために使用された。

- 第1週目： a. クラス・オリエンテーション（クラスの目標，評価，手順，持参するもの，その他の注意事項etc.）
b. 学生用カセット・テープの配布，および保管と使用上の注意
c. ブース・デッキの使い方
d. アンケート（主に過去の英語聴解学習に関する質問事項）
- 第2週目： a. JACET聴解力テスト（BASIC TEST: 40点満点）
b. Substitution Drill
c. 次週の予告と宿題の提示
- 第3～13週目： 下記の「3. コマにおける指導展開例（前期）」にしたがって授業を進めた。
- 第14週目： 前期期末テスト

2) 後期（音声，映像，文字画像による指導）

目標： 映像の助けを借りながら，生のスピーチを聴く訓練を通して，音変化のルールに慣れる。

テキストブック： 学生は毎回授業の度に数枚のプリント教材を配布された。上記の前期のテキストブックのところで記述したのと同じ理由からである。ただし，作成したプリント教材の基になったのは，*The Lost Secret*（BBC

English) であり, このビデオ教材は音変化のルールに慣れるため, 映像の助けを借りながら生のスピーチを聴く訓練をするために使用された。

第15～26週目： 下記の「3. 一コマにおける指導展開例（後期）」にしたがって授業を進めた。

第27週目： a. JACET 聴解力テスト（上記の第2週目に行なったものと同じもの）

b. Substitution Drill

第28週目： 後期期末テスト

3. 一コマ（90分）における指導展開例

1) 前期

A. 音変化（理解）[30 min.]

- ①プリント教材（Appendix I 参照）の配布 [1 min.]
- ②音変化（e.g. Liaison）が起こるメカニズムの説明 [7 min.]
- ③Fill-in Quiz: ②で学習した音変化が含まれたいくつかの文を, 各自実際にヘッドフォンを通して二度ずつ聴き（この時各自のテープに録音をする）, Fill-in Quizに答える。（Appendix I のBasic Patterns参照）[5 min.]
- ④Fill-in Quizの答え合わせ： 順に学生に言わせていくが, その音変化どおりに発音させること, また答えのみではなくどんなメカニズムでその音変化が起きたのかを説明させる。[7 min.]
- ⑤反復練習： 各自③で録音したFill-in Quizの7つの文を再生しながら, リピートし, それを録音してモデルと自分の発話を聴き比べる。（教師はモニターをしながら, 必要ならば個々の学生にインターカムを使って話しかける）[10 min.]

B. 日常会話の聴解学習 [50 min.]

- ① T・F Quiz (True or False Quiz) の解答用紙 (Appendix II 参照) の配布 [1 min.]
- ② 第一回目の T・F Quiz: 発話速度120WPM, 400~500語からなる簡単な日常会話をメモを取りながら二度聴き (この時各自のテープに録音する), その後, 10問からなる T・F Quiz に答える。解答は解答欄 (Appendix II 参照) の左側に記入し, 右側は第二回目の T・F Quiz のために残しておく。[5 min.]
- ③ T・F Quiz の解答用紙を回収する。[1 min.]
- ④ スクリプト (Appendix III 参照) の配布 [1 min.]
- ⑤ Fill-in Quiz: ②で録音したテープを各自再生し, ヘッドフォンを通して聴きながらスクリプトのブランクの部分に適当な語を記入していく。[7 min.]
- ⑥ Fill-in Quiz の答え合わせ: 学生に順に答えを言わせながら, 教師は語句の説明や, 音変化が起こっている箇所など必要な部分の説明をし, スクリプトの完全な理解を図る。[10 min.]
- ⑦ 反復練習: 一斉になるべく大きな声で, スクリプトを一発話毎に教師の後に続いてリピートする。(音変化の起こっている箇所は二度リピートする) [3 min.]
- ⑧ Pair Practice: 隣の人とペアを組み, スクリプトの会話練習をする。
(この時スクリプトは見てもかまわないが, 発話している時はできるだけパートナーの眼を見るよう指導する) [5 min.]
- ⑨ Questions & Answers: ヘッドフォンを通して, スクリプトに関する質問 (40~50問からなる。Appendix IV 参照) を聴き (この時テープに録音する), ポーズの間に各自口頭でそれに答え, その後流れる模範解答をリピートする。(教師はモニターをしながら, 必要ならば個々の学生にインターカムを使って話しかける) [15 min.]
- ⑩ 次回のクラスの最初に第二回目の T・F Quiz (第一回目の T・F

Quizと同じもの) をすることを予告し、そのため②で録音した会話のテープをよく聴いてくるように言う。[1 min.]

次回のクラスは第二回目のT・F Quizから、次のように始める。[10 min.]

- ①先週行なった第一回目のT・F Quizの解答用紙の配布 [1 min.]
- ②第二回目のT・F Quiz： 先週の会話のテープを一度聴き、その後、T・F Quizをする。解答は解答欄（Appendix II 参照）の右側に記入する。[4 min.]
- ③T・F Quizの答え合わせ： 教師がT・F Quizの問題文を読みながら答えとその理由を述べ、学習者はヘッドフォンを通してそれを聴きながら第一回目と二回目の自分の解答を自己採点する。（学習者は第一回目と二回目のテストを比較することにより、自身の学習成果を確認する）[5 min.]

そして、このあと上記A. 音変化（理解）へと続くのである。

2) 後期

音変化（訓練）[90 min.]

- ①M-C Quiz（Multiple-choice Quiz）の解答用紙（Appendix II 参照）の配布）[1 min.]
- ②一度目のビデオ視聴： 一エピソードを、必要ならばメモを取りながら視聴する（この時、各自録音する。）[15 min.]
- ③一度目のM-C Quiz： 10問からなる4肢選択クイズ（Appendix V 参照）に答える。[5 min.]
- ④視聴したエピソードの全スクリプト（音変化の起こっている箇所がブランクにしてある）の配布 [1 min.]
- ⑤Fill-in Quiz： ②で録音したテープを各自聴きながらスクリプトのブランクを埋めていく。また、同時に②のビデオ視聴時にはわからな

かったところの理解を，スクリプトより図る。[15 min.]

⑥ Fill-in Quizeの答え合わせ： 順に学生に言わせたり（音変化の発音に注意しながら），また時間が無ければ教師がOHPを使って答えを提示し説明を加える。[20 min.]

⑦ 二度目のビデオ視聴： ②で視聴した同じビデオを，必要ならばスクリプトを見ながら再度視聴し，音変化の部分も含めてそのエピソードの完全な理解を図る。[15 min.]

⑧ 二度目のM-C Quiz： ③で行なったクイズと同じものをする。（この時スクリプトは見ない）[5 min.]

⑨ M-C Quizの答え合わせ： 教師が問題文を読みながら答えとその理由を述べ，学習者はヘッドフォンを通してそれを聴き，第一回目と二回目の自分の解答を自己採点する。（学習者は第一回目と二回目のテストを比較することにより，自身の学習成果を確認する）[5 min.]

⑩ 次回の予告と宿題の提示 [2 min.]

Ⅲ．結果と考察

1. JACET聴解力テストの結果

表－1は3クラスの，学習前（Pre-test：1995年4月に実施）と学習後（Post-test：1996年1月に実施）のJACET聴解力テストの正答率を表したものである。なお，AはClass Aの学生（48名），BはClass Bの学生（52名），CはClass Cの学生（48名）であり，横線は欠席のためテストを受けなかったものである。

また，表－2は3クラス（Class A, B, C）のそれぞれの，学習前と学習後のJACET聴解力テストの正答率の平均値とSDである。

表-1 JACET聴解力テストの正答率(Pre- & Post-Test)

	Pre	Post		Pre	Post		Pre	Post		Pre	Post
A 1	32	50	A38	38	28	B27	45	58	C12	52	50
A 2	55	65	A39	40	53	B28	32	50	C13	35	53
A 3	47	48	A40	22	55	B29	—	80	C14	45	—
A 4	60	58	A41	73	78	B30	55	80	C15	45	50
A 5	30	30	A42	63	53	B31	30	53	C16	57	68
A 6	43	43	A43	50	48	B32	55	80	C17	60	68
A 7	35	—	A44	38	50	B33	68	60	C18	60	58
A 8	57	—	A45	40	78	B34	50	—	C19	57	63
A 9	30	40	A46	50	65	B35	38	53	C20	35	—
A10	28	35	A47	40	—	B36	35	50	C21	47	53
A11	32	40	A48	38	—	B37	45	40	C22	45	35
A12	22	53	B 1	55	66	B38	40	48	C23	22	60
A13	—	68	B 2	22	50	B39	38	43	C24	55	75
A14	13	20	B 3	50	50	B40	40	40	C25	43	60
A15	45	53	B 4	28	53	B41	35	43	C26	—	53
A16	47	—	B 5	38	—	B42	32	55	C27	57	65
A17	38	65	B 6	38	38	B43	45	65	C28	38	48
A18	43	63	B 7	43	50	B44	55	58	C29	43	63
A19	40	68	B 8	32	38	B45	43	65	C30	52	58
A20	52	65	B 9	28	35	B46	47	78	C31	65	68
A21	43	63	B10	—	48	B47	40	53	C32	28	63
A22	50	70	B11	63	78	B48	38	38	C33	35	50
A23	43	38	B12	57	58	B49	35	45	C34	70	75
A24	28	43	B13	65	90	B50	—	60	C35	30	60
A25	22	—	B14	45	55	B51	38	40	C36	40	55
A26	28	45	B15	38	53	B52	20	40	C37	45	40
A27	50	50	B16	63	58	C 1	65	65	C38	45	55
A28	35	40	B17	35	48	C 2	38	30	C39	32	43
A29	55	65	B18	17	33	C 3	65	70	C40	20	—
A30	28	38	B19	32	60	C 4	35	43	C41	63	53
A31	40	43	B20	50	43	C 5	25	38	C42	25	38
A32	63	73	B21	63	88	C 6	52	68	C43	25	30
A33	38	35	B22	30	30	C 7	50	55	C44	40	—
A34	32	43	B23	35	23	C 8	38	38	C45	40	53
A35	43	60	B24	25	38	C 9	25	48	C46	30	—
A36	60	73	B25	35	40	C10	22	45	C47	47	50
A37	32	45	B26	25	28	C11	28	43	C48	38	43

表－１より、Pre-testの最高正答率は73、最低正答率は13であり、また、Post-testの最高正答率は90、最低正答率は20であった。また、Pre-testよりPost-testの正答率の低かった者が、Class Aでは48名中6名、Class Bでは52名中5名、Class Cでは48名中6名であった。

表－２ JACET聴解力テストの各クラスの正答率の
平均値とSD

	Class A (48名)		Class B (52名)		Class C (48名)	
	Pre-test	Post-test	Pre-test	Post-test	Pre-test	Post-test
平均値	41.2	53.1	41.0	52.4	42.7	53.3
SD	12.59	8.68	12.27	15.39	13.38	11.67

表－２より、Pre-testとPost-testの正答率の差がClass Aは11.9、Class Bは11.4、Class Cは10.6、であり、3クラスともさほどの差はなかった。また、全体の正答率の平均値は、Pre-testが41.6、Post-testが52.9で、その差は11.3であった。

2. 考察

本授業の目標は、「英語を母国語とする人々が話す簡単な日常会話、および、基本英単語約2000語以内（難易度）、発話速度120～150WPM程度で話される約400～500語からなるテキストを、メモを取りながら聴き取れるようにすることを目的とする。このための下位目標として、JACET聴解力テスト（40点満点）を4月と翌年の1月に実施し、その点差が＋5～10となることを目指す」であった。上記の正答率の差（11.3）を素点（40点満点）に直すと4.5であり、わずかではあるが目標に到達してはいない。音変化についての指導は、先に述べたように聴解学習の基礎的なものとして不可欠であることを考えると、指導の方法に問題があったのではないかと

考える。ひとつには後期のビデオ使用についてであり、もうひとつは前期の音変化のメカニズムを理解させるための指導についてである。

まず前者に関しては、後期に音変化のルールに慣れるための訓練としてビデオを使用した。音声テープのみの方が効果的だったのではないだろうかということである。言語学習をコミュニケーションとして捉える場合、もちろん映像からの情報は欠くことはできない。しかし、聴解学習という点から見れば、映像は理解を助けはするが、情報があり過ぎたり、また、視覚からの情報に気をとられ聴解に集中することができなくて、時には妨げになる。LL教室に映像機器が導入されるようになってもう久しいが、教材として音声テープのみにするかビデオを使用するかは、いつも頭を悩ますところである。それでもビデオ使用に駆り立てられるのは、学生の興味ゆえである。特に聴解力の低い学生は、音声で理解できなくても、映像からある程度ではあっても視覚的に理解が可能であることから、とにかく最後まで画面に見入ることになる。一年間の授業の感想を学生に書いてもらったところ、「ビデオが面白くてLLの授業に出るのが楽しかった」という主旨のことを書いた者が50%以上であった。

次に後者に関してであるが、前期の音変化のメカニズムを理解させるための指導を、もっと根本的なところからするべきであったという反省である。これらメカニズムを理解するためには、英語構音（母音、子音）に関する基礎的な知識が必要である。中学、高校時代に英語発音に興味をもって声を出す訓練のできている者は、これら知識が無意識のうちに体得できしており、比較的スムーズに教師の説明を理解することができると思われるが、声を出して英語を読むことをできるだけ避けてきたような者にとっては、頭の中でその場限りの理解ができたとしても、なかなか身につかない。まず声を出すことから始めなければならない。

その他、表-1の各学生のJACET聴解テストの正答率に関して見逃せないのは、Pre-testよりPost-testの正答率の方が低かった者が全体（148

名)で17名いたことである。しかし、これら学生の年間の平常点³⁾や、欠席や遅刻の状況を見てみると、平常点(60点満点)が40点以下の者、また、欠席と遅刻の回数がそれぞれ5回以上の者がこの内11名であった。残りの6名に関してはたまたまテストの時に体調が悪かったのか、あるいは他の理由からなのか不明である。また、Pre-testと比べて、Post-testの正答率が20点以上高くなった者が、全体で30名いた。この聴解能力の急激な伸張は何によるのであろうか。ひとりひとりの学生の(本授業がなされた一年のみではなく、中学や高校時代の)英語の学習履歴を見ていながら、これら原因を考えていくことは必要であろう。

最後に、本研究において学生の一年間の聴解能力の伸張をJACET聴解力テストで測定し、本授業における指導の効果の有無を判定するひとつの基準として、それを採用したが、一年間という長いスパンの中では、本指導の効果のみではなく、他の変数も多々存在したであろうということを付け加えておく。

- 注 1) B. F. スキナーは、条件刺激とそれによって誘発される特定の反応に、強化刺激を随伴させることによって生ずるオペラント条件づけの現象を明らかにした。そして、強化刺激を制御することによって生体の行動が形成できるとするのであるが、その形成される行動をオペラント行動という。B. F. スキナーのプログラム学習はこの理論に基づいて設計されているが、その諸原理は①スモール・ステップの原理、②積極的反応の原理、③即時のフィードバックの原理、④自己ペースの原理、⑤学習者検証の原理である。
- 2) このテストは、日本の大学生の基礎的な英語聴解力を試すために、大学英語教育学会(JACET: The Japan Association of College English Teachers)のテスト研究開発委員会が研究、開発したテストである。
- 3) ここでいう平常点とは、毎回の授業でする小クイズや提出する宿題などからつけられる成績を指す。

参考文献

浅野 博(1990)『LLと英語教育』東京書籍

大内茂男・高桑康雄・中野照海編(1988)『視聴覚教育の理論と研究』

財団法人 日本放送教育協会

語学ラボラトリー学会 (LLA) 関東支部編 (1986) 『LL 教育機器活用ハンドブック』 愛育社

中野照海 (1988-89) 「視聴覚教育研究入門講座 1 ～15」 『視聴覚教育』
1988年4月号～1989年6月号

Turner J. D. (1968) *Using the Language Laboratory*. London:
University of London Press Ltd.

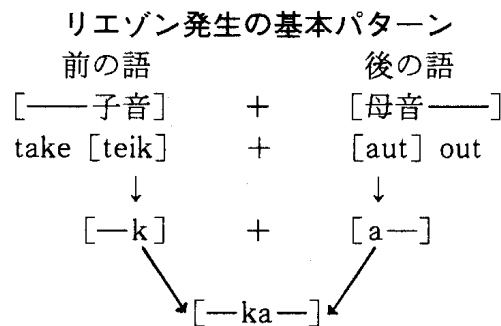
Appendix I 音変化理解のためのプリント教材例

Unit 4. Liaison

Score _____.

Class ____, ID No. ____, Name _____.

前の語の語尾の音と後の語の語頭の音が連結して起きる音現象を「音の連結」(リエゾン)といいます。リエゾンが発生する基本パターンは、前の語の語尾の子音と後の語頭の母音が連結して、そこに「子音+母音」の音単位を作り出すことです。



リエゾンは、つぎの3つの音環境でよく発生する現象です。

- ①語尾の [—r] + 語頭の母音 (含半母音) (summer_is)
- ②語尾の [—n] + 語頭の母音 (含半母音) (can_you)
- ③その他の語尾の子音 + 語頭の母音 (含半母音) (get_it)

Basic Patterns

1. Japan's summers _____ humid.
2. Please clean _____ quickly.
3. Please come right _____, I need _____.
4. It'll _____ take _____ minute _____ two to do.
5. I think Noboru and Hidemi will break _____ soon.
6. He lives _____ by himself.
7. I'm _____ kind _____ a hurry; can _____ help me?

Appendix II T・F Quiz および M-C Quiz の解答用紙

Answer Sheet

Class ____, ID No. ____, Name _____.

	DATE	
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
Score		

(スペースがたくさん有るのは、学生が自由にメモが取れるためである)

Appendix Ⅲ 日常会話のスク립ト例

Lesson 12. The Picnic Last Sunday

Socre_____

Class_____ID No. _____Name_____

Ann: Good morning, Bob.

Bob: Hello, Ann. How was the picnic_____ _____?

Ann: I enjoyed it a lot. We had a very good time.

Bob: _____ Mary? Was she there too?

Ann: No, she wasn't. She stayed_____ home.

Bob: She was invited, wasn't she?

Ann: Of course. But she was busy.

Bob: Studying, I suppose.

Ann: Yes, _____ always studying.

Bob: She's a good student, isn't she?

Ann: She _____ is. She hardly ever misses class.

Bob: By the way, I didn't see you in class last week. Where were you?

Ann: I was in Chicago. I visited some relatives there.

Bob: I have some relatives in Chicago too. I visited _____
last summer.

Ann: I _____ know that. Where do they live?

Bob: On _____ Street.

Ann: Is that right? My relatives live on 15th Street.

Bob: That's nice. We can go to Chicago together some time.

Ann: Good idea!

Appendix IV Questions & Answers 例

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. Is Bob visiting Ann? | Yes, he is. |
| 2. Is it a nice day or a cold day? | It's a cold day. |
| 3. Is Ann's room nice and warm? | Yes, it is. |
| 4. Does Bob like it very much? | Yes, he does. |
| 5. Does Ann have any pictures in her room? | Yes, she does. |
| 6. They're nice, aren't they? | Yes, they are. |
| 7. Is Ann reading or writing a letter? | She's writing a letter. |
| 8. Is it a long letter or a short letter? | It's a short letter. |
| 9. Is she writing to her parents or her friends? | She's writing to her parents. |
| 10. Are Bob's shoes wet or dry? | They're dry. |
| 11. Does Bob want a cup of tea? | Yes, he does. |
| 12. Is it raining now? | No, it isn't. |
| 13. Does Ann have a lot of books? | Yes, she does. |
| 14. What kind of books does she have? | She has sociology books and novels. |
| 15. Does she like historical novels or romantic ones? | She likes historical novels. |
| 16. Is she reading one now? | Yes, she is. |
| 17. Does Bob like music? | Yes, he does. |
| 18. Does Ann keep her records in a drawer or in a cabinet? | She keeps them in a cabinet. |
| 19. Are they listening to classical music or to folk music? | They're listening to folk music. |
| 20. Is it a cheerful song or a sad song? | It's a cheerful song. |
| 21. What kind of songs does Bob like? | He likes cheerful songs. |
| 22. Does Ann have a record player or a stereo set? | She has a stereo set. |
| 23. What about Bob? | He has a cheap record player. |
| 24. A stereo set is expensive, isn't it? | Yes, it is. |
| 25. Is the stereo set a present from Ann's father or from her uncle? | It's a present from her father. |
| 26. Does her father ever listen to music? | No, he doesn't. |
| 27. Is her father usually busy or free? | He's usually busy. |

- | | |
|---|---------------------------------------|
| 28. What does he always do when he's free? | He always plays golf. |
| 29. Who is Bob visiting? | He's visiting Ann. |
| 30. How is the weather? | It's cold and rainy. |
| 31. What does Bob like very much. | He likes her room very much. |
| 32. What is Ann writing? | She's writing a letter. |
| 33. Who is she writing to? | She's writing to her parents. |
| 34. What is Bob drinking? | He's drinking a cup of tea. |
| 35. What is he eating? | He's eating cookies. |
| 36. Where does Ann keep the cookies? | She keeps them in a box. |
| 37. What kind of books does Ann keep in her bookcase? | She keeps sociology books and novels. |
| 38. Where does Ann keep her records? | She keeps them in a cabinet. |
| 39. What kind of music are they listening to? | They're listening to folk music. |
| 40. Who is the stereo a present from? | It's from her father. |

Appendix V Multiple-choice Quiz 例

Episode 7. Good News & Bad News

Multiple-choice Quiz:

1. Why did Orwell and Dr. Roberts go to the library of the Botanical Institute?
 - a) Because Orwell wanted to see Sabina.
 - b) Because Orwell wanted to find out that Telo plant can be male and female.
 - c) Because Orwell wanted to find out more information about the memory drug.
 - d) Because Orwell wanted to know where he can get more Telo plants.
2. How did Orwell know that Sabina may have been at the library?
 - a) from Dr. Roberts' words
 - b) from the librarian's words
 - c) from the back of a woman
 - d) from the book on the floor
3. What was Dr. Roberts doing when orwell saw Sabina?
 - a) She was talking to a librarian.
 - b) She was looking at books in the South American section.
 - c) She was phoning the office.
 - d) She was parking a car outside the library.
4. What was Sabina doing at the library?
 - a) She was looking for some books.
 - b) She was studying about drugs.
 - c) She was investigating where Telo plants are.
 - d) She was studying about South America.
5. Why could Dr. Roberts believe that Orwell saw Sabina?
 - a) Because Orwell told so.
 - b) Because Orwell was very surprised.
 - c) Because Orwell's memory is coming back.
 - d) Because She found a missing page from a book.
6. Where did Sabina get out from?
 - a) from the entrance
 - b) from the balcony
 - c) from the window
 - d) from the fire exit

7. Why did Professor Sline get angry with Harry?
 - a) Because Orwell wasn't dead.
 - b) Because Orwell didn't lose his memory.
 - c) Because Harry always plays with stupid toys.
 - d) Because the drug didn't work.
8. What is the bad news?
 - a) Sabina saw Orwell at the library, and he remembered her name.
 - b) Sabina was seen by Orwell at the library.
 - c) There are no Telo plants in England.
 - d) There are Telo plants in England.
9. What is the good news?
 - a) Sabina saw Orwell at the library, and he remembered her name.
 - b) Sabina was seen by Orwell at the library.
 - c) There are no Telo plants in England.
 - d) There are Telo plants in England.
10. Who found out the answer why the drug hadn't worked?
 - a) both Sabina and Sline
 - b) both Orwell and Sline
 - c) Sline
 - d) Sabina

Developing Listening Comprehension in the Language Laboratory

— A Study in Teaching Sound Change —

Yumiko Yanagihara

What are the main reasons that listening is more difficult than reading for many learners of English as a second language? In reading it is generally easier to recognize a succession of words in sentences than in listening where perceiving a flow of distinct vocal sounds is more difficult due to liaison, elision, deletion, assimilation, and sound reduction. Therefore, in developing listening comprehension it is fundamental for learners to understand the mechanics of sound changes and to be drilled in listening to them.

The benefits of teaching sound changes in the language laboratory rather than in a classroom involve the instructor's ease in combining three separate learning techniques: (1) classroom learning (e.g., receiving an explanation of sound changes), (2) group learning (e.g., practicing a dialog including sound changes with a partner), and (3) personal learning (e.g., listening to English through a headphone and answering a quiz). The language laboratory also puts some of Skinner's programmed learning theories into practice: learners' active reactions can be expected, immediate feedback from a teacher can be given, and learners can pace themselves to some extent. These have all been shown to be very helpful for teaching sound changes.

With the above mentioned points in mind, the author conducted a

study of language classes which gave priority to instruction in sound changes. This study covered a one-year language laboratory class for junior college students in which the students tried to understand the mechanism of sound change and were drilled in appropriate rules. All students took the JACET Basic Listening Test as a pre- and post- test (April and January, respectively). The test results are reported and discussed.